

いにしへ

古の婚礼

—吉祥模様からみる文化—

いつの時代にも結婚式に憧れる女性が多いものです。その中でもとりわけ婚礼衣装には並々ならぬこだわりがあるものでしょう。そこにあらわれる意匠や色は、美しさや精緻さを見出せるだけでなく、人々の願いや想いをも込められたものであります。

本展覧会では、江戸時代から昭和までの女性が晴れの日に纏う婚礼衣装・道具から、さまざまな吉祥模様を紹介いたします。

吉祥模様とは、一年中緑を保つ松や、一直線にまっすぐ伸びる竹、厳しい冬の寒さにも負けず花をつける梅、長寿の証として尊ばれる鶴と亀など、古くは中国から伝えられてきた祝意のあらわれです。また色にも意味があり、模様と色の双方を組み合わせることによって、幸福がずっと続くようにという切実な願いが、それぞれの衣装から浮かび上がってくるのです。

美しい婚礼衣装に込められたいつの時代も変わらぬ思いを、本展覧会にて感じとって頂ければ幸いです。

左：紅縞子地竹模様振袖
中央：白縞子地梅模様振袖
右：黒縞子地松模様振袖